

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書**地域密着型サービスの外部評価項目構成**

. 理念に基づく運営	項目数	11
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		6
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		11
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
	合計	30

事業所番号	4672700145
法人名	有限会社 ひまわり苑
事業所名	グループホームひまわり
訪問調査日	平成19年12月26日
評価確定日	平成20年3月27日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月6日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県 第4672700145		
法人名	有限会社 ひまわり苑		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	南九州市川辺町上山田4239番地5 (電話)0993-58-9037		
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成19年12月26日	評価確定日	平成20年3月27日

【情報提供票より】(19年 11月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14年 9月 9日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 4人, 非常勤 5人, 常勤換算	5.8人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	階建ての 1階 ~ 1階部分		

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1日840円/25200円	その他の経費(月額)	一日 300 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1000円		

(4)利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 75歳	最低	68歳	最高	97歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	菊野病院、児五病院、東外科胃腸科、雅集会かわなべ共立内科、米沢内科クリニック、深町歯科医院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周囲に公園や住宅が点在している静かな環境に恵まれた中にあるホームである。敷地内に広い菜園があり、季節の食材や花々を入居者と一緒に栽培している。又、管理者や消防分団の職員が敷地内に居住しているため日常生活に安心感がある。昔馴染みの大家族の様子を彷彿とさせているホームの中で施設長、職員は入居者に真摯に向き合い、地域の中でその人らしく、生きがいのある暮らしを日々提供できる事に喜びを感じている。地域住民や、小学生、ボランティアの訪問や交流など行なわれて、ホームの理解者や応援者が増え協力体制が構築されている。事業所の多機能性を活かす取り組みなども検討段階であり、地域密着型サービスを実践している。ますますの充実が期待されるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	緊急時のマニュアルを作成し、消防分団の協力のもと、AED使用訓練や応急処置の実践訓練をしている。口腔ケア・健康診断の受診については実施されている。市町村との連携は相談や運営推進委員会議への参加等連絡体制ができています。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を理解しながら全職員で自己評価を行い、振り返りや気付きをサービスの質の向上に活かすように取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議には地域住民代表、入居者、家族代表、行政職員の参加があり、定期的開催されている。事業所の取り組み内容や災害時の協力体制などについて討議されている。そこでの意見を活かし具体的な取り組みをしているが話し合いの記録がなされていないので討議内容を記録して全職員に報告し出された意見や要望を共有してサービスの質の向上に活かされる事を期待したい。
重点項目	相談苦情について入居時の説明文書に明記し説明を行なっている。苦情箱や第三者評価委員を設けたり、面会時や運営推進会議で意見が言える雰囲気づくりに努めている。出された意見や要望は職員で話し合いすぐに対応できるように取り組んでいる。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域の行事(敬老会・太鼓踊り)や小学校の行事に参加している。また、ホーム主催の行事に地域の方が参加したり、小学生や近所の住民の来訪、ボランティアの訪問など交流は行なわれている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者がその人らしく触れ合いながら生活し、地域との関わりを大切にしたい理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関にわかりやすく掲示している。又、説明文書やパンフレットにも明記している。職員採用時には理念を伝えて共有し理念に沿ったケアを実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事(敬老会・太鼓踊り)や小学校の行事に参加している。又、ホームの主催の行事に地域の方が参加したり、小学生や近所の住民の来訪、ボランティアの訪問等交流は行なわれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価について施設長、管理者、職員全員で話し合い、意義を理解し評価に前向きに取り組む、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民代表、入居者、家族代表、行政職員の参加があり定期的に開催されている。事業所の取り組み内容や災害時の対策などについて討議されている。そこでの意見を活かし具体的な取り組みをされているが、話し合いの記録がされていない。		会議の討議内容を記録して全職員に報告し、話し合いの中で出された意見や要望を共有してサービスの質の向上に活かされる事が求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者に事業所の運営やサービスについての課題など相談し、助言等してもらっており協力関係を築いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	苑便り(季刊紙)と月1~2回の面会時に入居者の日頃の暮らしぶりや身体状況を報告している。金銭の預りは行なっていない。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談、苦情について入居時の説明文書に明記し、説明を行なっている。苦情箱や第三者評価委員も設けている。面会時や運営推進会議等で意見や要望を表せる機会を設けている。出された意見や要望は職員で話し合い、すぐに対応できるように取り組んでいる。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむをえない離職はあるため、新職員には日勤に十分慣れてもらい、夜勤は二人体制で行い、スムーズに仕事に慣れ入居者と馴染みの関係ができるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は勤務体制を考慮しながら参加できるように配慮している。定期的に事例を通した内部研修も行なっている。		外部研修(自己研修)受講の職員は出来る限りミーティング等で研修報告を行い共有化に努め職員の技術や知識の向上に活かされる事を期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域にある他のグループホームと気軽に連絡、相談できる関係を築いている。又、相互訪問や交流を検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の折は病院や自宅に面会に行き心身の状況や思いの把握に努めている。又ホームに見学に来てもらい、入居者と一緒に過ごしてもらおう等、本人が不安なく入居できるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者と寄り添い、触れ合う事を大切にし、昔の料理や作物の栽培法を教わったり、家族への手紙の代筆や電話等しながら入居者と学び、支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の日常の会話の中から思いや意向を汲み取るように努めている。口頭で表せない入居者に対しては行動(髪に手をやる、車椅子を揺らす等)や表情で把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で本人、家族の意向を把握しカンファレンスで意見を出し合い、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。家族にも説明を行い同意を得ている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しをしている。変化時のプランの見直しが遅れがちになる場合もあるが記録をもとにアセスメントや評価を行い見直ししている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診、医療処置を受けながらの生活の継続、墓参りや外泊、特別な外出の支援など家族の希望や状況に応じて柔軟な支援を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医による受診を支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時や状態変化時に重度化や終末期について本人、家族、協力医と連携を取り話し合いは行なっているが、はっきりとしたホームの指針は定められていない。		重度化や終末期に事業所としてできる支援の対応指針を作成する事が望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳を大切に、穏やかな声かけやゆったりとした態度で対応している。守秘義務については、職員採用時に誓約書をかわし、個人情報の利用については、家族等の同意も得ている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝・昼寝・食事時間・入浴等、日常生活の中で一人ひとりの体調や状態、思いに配慮しながら入居者のペースで生活ができるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者の希望も聞き、調理の下ごしらえ、配膳や下膳等できる事を利用者と共に行い、さりげなくサポートしながら楽しく食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決められておらず、時間も入浴者に合わせ、柔軟に対応し、楽しく入浴してもらえるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者のそれぞれの趣味やできる事を把握し食器の片づけ、洗濯物干しやたたみ等をしてもらい見守りながら支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や近くの公園へ出かけている。病院通院を兼ねたドライブなどホームに閉じこもらない工夫をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は鍵をかけないケアの重要性を認識している。日中は施錠せず入居者も来訪者も自由に入出入りしている。又、センサーの利用と見守りにより入居者は安全に過ごしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防分団や住民の協力のもと昼・夜間想定災害訓練を行なっている。又、身体状況を記した見取り図を配布したり、近くに設置されている防火水槽の試運転等も行なわれている。災害用備蓄は食品や飲料水の他に救急用品の中に保険証のコピー等も保管されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量をチェックしている。献立は協力病院の栄養士にチェックしてもらいながら作成している。水分補給は季節に応じて居室にペットボトルを備えている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに仏壇や神棚が置かれている。畳の間、ソファがあり、季節感を感じる飾りつけや花が活けられている。又、カーテンやじゅうたんは防火用のものを使用し、安全で快適に過ごせる共用空間作りである。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、位牌、タンス、ソファ、こたつ、電気暖房器等、使い慣れた馴染みの物品が持ち込まれて個性的な居室作りになっている。		